




活動プログラム	No.23 仲間作りチャレンジプログラム		
期待される効果			
プログラム概要	グループでの課題解決ゲームをととして、主体的に関わっていくことや協調性を育みます。キャンプの序盤に実施することにより、その後の活動の学びをより効果的なものにします。		
対象	小学生以上	人数	1班～2クラス（1クラスが適）
時期	通年	場所	野外：グラウンドやキャンプ場等 室内：多目的ホールや研修室等
金額	無料	※指導者派遣が必要な場合はお問い合わせください	スタッフ数 1クラスに対して3人以上

準備物	団体ごと	救急セット
	服装 個人装備	野外：長袖・長ズボン、帽子、水筒、タオル 室内：体育館シューズ、動きやすい服装、水筒
美方高原で レンタル可能な物		ホイッスル、ストップウォッチ、各活動での使用物品

活動のタイムスケジュール（例）

時間	運営	安全上のポイント		
9:00	集合→インストラクション、準備体操 各活動開始	体調確認		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【例A】ねらい：緊張をほぐす</p> <p>1：イニシアティブゲーム （フープリレー／スタンドアップ等）</p> <p>2：課題解決ゲーム（難易度：低） （パイプライン／キーパンチ等）</p> <p>3：課題解決ゲーム（難易度：中） （ランナップ／日本列島等）</p> <p>4：ふりかえり</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【例B】ねらい：主体性を育む</p> <p>1：イニシアティブゲーム （UFO／人間知恵の輪等）</p> <p>2：課題解決ゲーム（難易度：中） （ラインナップ／魔法のじゅうたん等）</p> <p>3：課題解決ゲーム（難易度：高） （クモの巣くぐり／リバージャンプ等）</p> <p>4：ふりかえり</p> </td> </tr> </table>			<p>【例A】ねらい：緊張をほぐす</p> <p>1：イニシアティブゲーム （フープリレー／スタンドアップ等）</p> <p>2：課題解決ゲーム（難易度：低） （パイプライン／キーパンチ等）</p> <p>3：課題解決ゲーム（難易度：中） （ランナップ／日本列島等）</p> <p>4：ふりかえり</p>	<p>【例B】ねらい：主体性を育む</p> <p>1：イニシアティブゲーム （UFO／人間知恵の輪等）</p> <p>2：課題解決ゲーム（難易度：中） （ラインナップ／魔法のじゅうたん等）</p> <p>3：課題解決ゲーム（難易度：高） （クモの巣くぐり／リバージャンプ等）</p> <p>4：ふりかえり</p>
<p>【例A】ねらい：緊張をほぐす</p> <p>1：イニシアティブゲーム （フープリレー／スタンドアップ等）</p> <p>2：課題解決ゲーム（難易度：低） （パイプライン／キーパンチ等）</p> <p>3：課題解決ゲーム（難易度：中） （ランナップ／日本列島等）</p> <p>4：ふりかえり</p>	<p>【例B】ねらい：主体性を育む</p> <p>1：イニシアティブゲーム （UFO／人間知恵の輪等）</p> <p>2：課題解決ゲーム（難易度：中） （ラインナップ／魔法のじゅうたん等）</p> <p>3：課題解決ゲーム（難易度：高） （クモの巣くぐり／リバージャンプ等）</p> <p>4：ふりかえり</p>			
11:30頃	各活動終了→総括 ふりかえり	体調確認		

補足ポイント

- 開始前には、なぜチャレンジするのかを意識付けられる動機づけを行います。
- 各活動を担当する指導者は事前に打ち合わせを行い参加者への関わりに違いがないようにします。
- 対象者とねらいによって、活動の種類やルール、負荷などを考慮してプログラミングします。

活動 プログラム	No.23	仲間作りチャレンジプログラム
-------------	-------	----------------

予期されるリスク	リスクに対する対応
活動用具の不適切使用	事前に予想されるリスクの説明をし、注意喚起を行う。また、不適切な使用があった場合、活動を中断し改善を行う。
低体温症	服装の確認を行う。また、気温が低い場合は温かい物を準備しておき、休憩をこまめにとるなど体の冷えを防ぐ工夫を行う。
急激な動きによるケガ等	準備体操及び整理体操を行う。
心理的ストレスの軽減	思春期の青少年特有の男女の意識による、身体接触のストレスや感情に配慮する。段階的な身体接触や必要に応じてカウンセリングする。
各活動特有の危険	活動毎に予測されるリスクを説明し注意喚起を行う。また、不適切な動きがあった場合、活動を中断し改善を行う。
熱中症、脱水症状	特に室内で行う場合は、十分な水分を準備するよう伝える。また、気温が高い場合は、休憩をこまめにし体調確認を行う。
ハチ、ヘビとの遭遇	ハチやヘビとの遭遇した場合の対応を伝えておく。また村までのルート以外には入らせない。車道の付近のハチの巣の駆除。
天候不良	当日の天気予報を確認し、著しく悪化する場合はプログラムの時間変更、もしくは室内への切替を行う。
その他のケガ、体調不良	救急バックを携帯し、応急手当の準備をする。事前の体調調査、当日の確認を行い、バックアップ体制を整えておく。

事前点検・準備事項
実施フィールドは安全に実施できる状態か。
運営スタッフ間でねらいや子どもの動きなどの詳細の打ち合わせは行ったか。
天候の情報を確認して、適切な対応をしたか。
参加者の年齢、人数、スタッフ数、体調面などの情報は入っているか。
運営方法やタイムスケジュールは明確であり、共有されているか。
施設準備物は使用可能な状態か。また数は揃っているか。
参加者もしくは団体への持ち物の伝達は行ったか。

活動時のインストラクション（必須事項）
活動ルールを理解し、守ること。
活動用具は適切に使用すること。
準備体操を行うこと。
予想される気温・天候に応じて、低体温注意や高温注意喚起を行うこと。